

二〇一三年度入学試験問題 (二月一日・午前)

国語

★注意事項★

- ① この問題用紙は、17ページあります。「はじめ」の合図があるまでは開かないこと。
- ② 解答用紙はなかにはさんであります。受験番号・氏名を必ず記入すること。
- ③ 解答はすべて解答用紙に記入すること。
- ④ 印刷が不鮮明だったり、ページがぬけ落ちたりしているときは、すぐに申し出ること。
- ⑤ 「やめ」の合図があったら鉛筆を置き、先生の指示にしたがうこと。

1

あとの問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 次の①～⑤の——線の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 学校のすぐそばに一級河川が流れている。
- ② 翌春には、この制服を着るだろう。
- ③ 名前が連なる中に自分の名前があつた。
- ④ 入学式で全員の点呼を取る。
- ⑤ だれひとり余すことなく友達になつた。

(2) 次の①～⑤の——線のカタカナを漢字になおしなさい。

- ① タダちに教室に戻りましょう。
- ② 切手をシュウシュウする趣味がある。
- ③ あることからオノレを知ることになった。
- ④ しあわせな家庭をキズく。
- ⑤ チンタイマンションに住んでいる。

(3) 次のア・イのことばのうち、ふさわしいのはどちらか、記号で答えなさい。

① 悪いところを
ア なくす
イ 失う
ように努力しよう。

② この絵画は私の
ア 苦勞
イ 苦心
の作だ。

③ 展覧会で
ア 入選
イ 当選
した。

④ 夏休みを前にして心が
ア はねる。
イ はずむ。

⑤ 他人のまねばかりでは
ア 進歩
イ 発達
がない。

(4) 次のア・エの——線のことばのうち、種類がちがうものを一つ選び、記号で答えなさい。

① ア わたしはこの赤いのにします。
ウ 学校へ行くのに時間がかった。
エ 車を出すのに自転車じゃまだ。

② ア この本はおもしろくない。
ウ このジュースは冷たくない。
エ このリングはおいしくない。

③ ア おしゃべりをやめさせる。
ウ 新製品を試させる。
エ 家でピアノを練習させる。

④ ア 優勝しようと努力したが勝てなかった。
ウ この計画には問題が残されている。
エ 山の上には教会がある。

⑤ ア きれいな花が咲いている。
ウ それはとてもおかしい話だ。
エ 山田くんはとても元気な男の子だ。

2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数については、「、」や「。」も一字に数えます。)

あなたは時計を持っていますか？

ほとんどの人は腕時計をして、一日に何度も時計を見て、生活しています。忙しい大都会に住む人はもちろん、田舎でのんびりと悠々自適の生活を送っている人にも時計は必要です。時計を見ないと、身体のリズムがくるってしまうからです。では①どんな目的で、私たちは時計を見るのでしょうか？ 朝、学校や仕事に遅刻しないためというのが、まず最も多いでしょう。会議に遅れないためとか、食事の時間を決めるとか、友人との待ち合わせの時とか、いろいろな場面で、いつも時計を見ていることに気がつくでしょう。日常生活スケジュールをこなしていくのに、なくてはならないのが時計です。

時計を使っているのは人だけでしょうか？

そうではありません。他の生物も、地球に住む生物はすべて身体はどこかに時計を持っています。その時計の時刻感覚にしたがって、生命(いのち)の活動を営んでいるのです。

②最も多くの時計を持っているのは植物です。植物は、地中に根をはっています。どんなに寒くても、大風が吹いても、雷が鳴っても、人のように安全な場所に避難することができません。しかも、植物のエネルギー源は光合成だけです。生長し、花を開き、実をつけて、生きのびていくためには、太陽光が必須(必ず用いるべきこと)なのです。それゆえ植物には、数多くの時計が備わっています。

青を感知する時計、緑を感知する時計、赤を感知する時計等々です。この数多くの時計を用いて、植物は夜明けを予知します。夜明けが近づくと、一筋の太陽光をも逃すまいと、夜明け前から光合成の準備を開始します。

小動物や昆虫も、生きのびていく術として、太陽光を利用しています。夜間など、外敵の少ない時間帯を感知し、その時

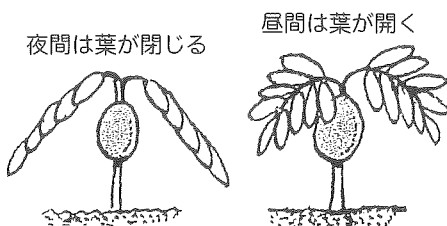
刻を的確に選んで行動することが必要だからです。

③生物時計は、そのほかいろいろ手を変え品を変えて、様々な働きをしています。たとえば、渡り鳥は、時計を使って時刻を知るだけではなく、日の差す方向から太陽の位置を知り、目的地の方角を正確に割り出します。時計は、大陸間を正しい方向に移動するのには必須の道具なのです。

このように繊細に工夫された時刻感覚は、生物が時計装置を持っていると考えなければ説明することができません。この装置を生物時計(生体時計、体内時計)と呼んでいます。

生物時計はいつごろ、発見されたのでしょうか？

生体リズムについての最初の記録は、アレクサンダー大王の軍隊のある隊長が、戦闘の合間に観察したオジギソウについてのものです。



* アリストテレスの教育を受けて育ったアレクサンダー大王は、科学への造詣が深く(その分野についてよく知っていること)、未知の事象への関心が深い科学者でもありました。紀元前325年のペルシャ大遠征に際して、幕僚たちに、遠征の中で見聞きする新しい科学的知見(見て知ること)があれば、それを詳しく記録しておくように命じていました。その命を受けていた提督(司令官のこと)の一人、アンドロステネスは、ペルシャ湾上の小さな島、バーレーン島⑤で生体リズムについての最初の記録を残しました。その日誌に、マメ科に近いタマリンドという植物の葉が、昼間開き、夜に閉じる(これを就眠運動といいます)ことを観察し記録したのです。故国では動く植物を見たことがなかったマケドニアからきたギリシャ人は、昼夜の交替にあわせて運動する植物を見て感銘したことでしょう。ただアンドロステネスは、タマリンドの葉が明るくなったら開き、暗くなったら閉じると簡単に考えていたようです。

18世紀、フランスの天文学者であったド・メランは、マメ科のオジギソウの葉は暗黒の中でも、昼の時間には昼夜の明暗条件と同じように、何日も繰り返して葉を開くことを観察し、何か時計のような仕組みがあるに違いないと想像しました。

⑥ 葉の就眠運動は植物にとってどのような意味があるのでしょうか？

南ドイツにあるチュービンゲン大学の植物学教授、エルヴィン・ビュニングは、1958年に「生理時計」という著書を著し、このリズムは葉の就眠運動だけではなく、花卉の運動、ゴキブリやラットの活動量にもみられることに注目しました。そして、1960年に米国のコールド・スプリング・ハーバー（アメリカ合衆国にある港町）で開催された、「生物時計に関する世界で初めての国際シンポジウム」で、このリズムは地球の自転に対する生物の適応であると発表したのです。すなわち、昼の間にでるだけ多くの太陽光を浴びることは、植物にとって唯一のエネルギー源である光合成を、効率よく行うためであると考えられます。それゆえ、日の出の時刻を予測し、前もって光合成の準備をしておくことが生死につながる一大事なのです。

それでは、光が当たらない夜に葉を下に垂らすのはなぜでしょう？ 植物にとってどんな利点があるのでしょうか？ 確かに葉面から外気へ熱を放散するのが防げます。霜の害を免れる効果もあるでしょう。それだけでしょうか？

ビュニングは次のような実験を行いました。明期の照度を2000ルクスから0・6ルクスまで下げてみました。植物はそれでも光を感じました。0・05ルクスにまで下げてはじめて感知しなくなりました。では、夜の明るさはどれくらいなのでしょう？ 満月の明るさは0・2ルクスもありました。夜に葉が垂れる理由は、月の光が明るいため、それを避ける意味があつたのです。マメ科植物にとって、生存するためには就眠運動が不可欠の振る舞いだったのです。ビュニングにはじまる、植物学を中心とする時間生物学は、名古屋大学の近藤孝男教授の手で日本に受け継がれ、農学、薬学、医学に応用されています。

（大塚邦明『体内時計の謎に迫る』より。一部省略したところ、表記を改めたところがあります。）

* 悠々自適……………世間のことにわずらわされず、自分の思いのままに暮らすこと

アレクサンダー……………古代マケドニア王国の国王

アリストテレス……………古代ギリシアの哲学者

幕僚……………指揮官を補佐する者

シンポジウム……………研究発表会や討論会のこと

ルクス……………明るさの単位

問1 ——— 線①「どんな目的で、私たちは時計を見るのでしょうか？」とありますが、私たちが時計を見る目的を、本文中から18字で「うため」に続く形でぬき出しなさい。

問2 ——— 線②「最も多くの時計を持っているのは植物です」とありますが、その理由としてもっとも適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 植物は動くことができない上に、エネルギー源は光合成だけなので、夜明けを予知するため

イ 植物は動くことができないので、夜間など外敵の少ない時間帯を感知し、生きるために太陽光を利用するため

ウ 植物は動くことができない上に、エネルギー源は根から吸い上げる養分だけなので雨を予知するため

エ 植物は動くことができないので、日の差す方向から太陽の位置を知り、目的地を割り出すため

問3 線③「生物時計は様々な働きをしています」とありますが、本文にあげられている「生物時計」の「様々な働き」を具体的に二つ答えなさい。

問4 線④「それ」のさすものを答えなさい。

問5 線⑤「生体リズム」について説明されている次のA～Dの正しいものには○、まちがっているものには×をつけなさい。

- A タマリンドの葉は、明るくなったら開き、暗くなったら閉じる。
- B タマリンドの葉は、昼の時間には開き、夜の時間には閉じる。
- C タマリンドの葉は、暗黒の中ではずっと閉じている。
- D タマリンドの葉は、暗黒の中でも葉を開閉させる。

問6 線⑥「葉の就眠運動はあるのでしょうか」とありますが、植物にとっての就眠運動について説明した次の文章の□にあてはまることばを本文中からぬき出し、文を完成させなさい。(□は1字とします。)

葉は、昼の間にできるだけ多くの□□□□を浴びるために開き、また夜は□□□□が明るいので、それを避けるために閉じる。就眠運動は、マメ科の植物が□□□□□□□□のために不可欠な振る舞いである。

問7 〰〰〰線「その時計の〰〰〰ののです」とありますが、次の(1)～(3)は「生命(いのち)の活動」として挙げられている例です。その活動と結びつくものを次の写真から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 光合成をする
- (2) 外敵の少ない時間を感知する
- (3) 目的地の方向を知る

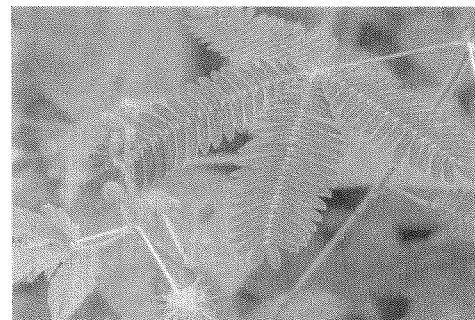
ア



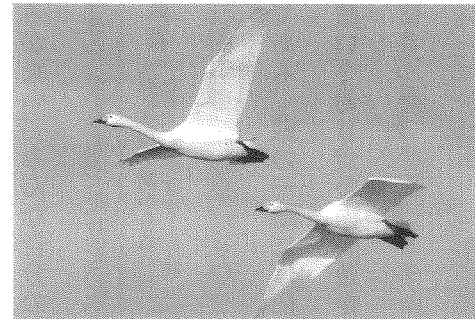
イ



ウ



エ



3

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数については、「、」や「。」も一字に数えます。)

暮らしのめどが立たぬまま、父の故郷の村に戻ったが、事態は好転しなかった。身をよせるところがない。みんな自分のことで精一杯だから仕方がない。父は、わずかな知り合いや親戚を訪ね歩き、泊めてもらったり食事させてもらったりした。食事どきを見計らって訪ねて、恐縮しながら食べさせてもらっていると、都落ちして流浪する落ち武者(戦に負けて都から追われ、あちこちをさまよう武士)みたいな、うらぶれた気分になった。

なんとか親戚の蔵の二階に住まわせてもらえるようになったのは、村に戻ってだいぶたつてからである。蔵の一階には使
い古しの農機具や木箱が詰まっている。階段を上って二階にあがると、ここにも長持や小たんすが置いてあり、その間をか
きわけて住むのだが、畳二、三枚ほどのスペースはあり、滋賀県での間借り生活より、ずいぶん楽になった。

蔵に住めるようになって父がすぐ始めたのは釣りであった。
昔から釣りが趣味だが、いまや趣味というより仕事だ。職も家もない、売るものもない親子三人暮らし。ないないづくし
の日々で、魚は貴重な食料になったのだ。

父の夜なべ仕事は、明日の釣りの準備だ。裸電球の下で、箱のように正座し、茶道のような手つきで釣り針を扱い糸
を巻き、エサを用意していた。エサは、人間用の貴重なサツマイモや小麦粉を、少々魚用にとりわけると、ヌカをいったもの
を水でこねたりする。

母の夜なべ仕事は、「仕事」にするほど依頼はなかったが、着物の仕立て直しを頼まれてやっていた。報酬は米、大麦、
小麦粉など。

昔話の出だしは「おじいさんは山へしば刈りに、おばあさんは川へ洗濯に……」であるが、我が家も似たものである。

「おとうさんは山の池に魚釣りに、おかあさんは川へ洗濯に……」というふうに一日がはじまる。ときどき農作業を手伝っ
て、野菜をわけてもらったりもした。

釣りの獲物はほとんどフナ。ナマズが釣れることもあったが、少々泥臭かった。よくとれる日もあり、さっぱりダメな日
もあった。釣った魚は素焼きにして保存し、しゃぶるように大切に食べる。

私は小学校五年生になった。学校がおわると、私も釣りに参加する。すこしは戦力になるからだ。父のそばで釣り糸をた
れ、釣り上げるタイミングなどのコツを教わると、おとなっぽい気持ちになる。ひとりで二十数匹のフナを釣ったこともあ
り誇らしかった。

主食はもつばらヌカやサツマイモの粉をこねて蒸したものであった。小麦粉をこねて蒸したものは、いちばんのゴチソウ
である。それにフナの煮付けとキュウリの塩もみを添えたのが、「オオゴチソウ」であった。いまでも、蒸し小麦粉とキュ
ウリもみセットをつくって、うまいうまいと食べたりする。ただし、サツマイモのほうは夢でうなされるほど食べて、苦手
な食べ物になってしまったが……。

毎日空腹だったが、さして苦にならなかった。釣りや農作業はむしろ面白く、子どもというのは結構へこたれないもので
ある。父や母も楽天的な気性で、なんとかなさりと開き直っているようなところがあった。

さて、暖かい季節は、まあそんな調子でやりすごせたが、寒くなると、やりくりがつかなくなることも多くなる。のんき
な両親も、ひたいを寄せて相談する回数が増えた。

そして十二月の半ばのある日のことだ。学校から帰ると、釣りに行っているはずの父が、
蔵の窓のそばに正座して、外の景色をみている。

「とうちゃん、どうしたん？ 釣りに行かんのか？」

「……ああ……」

父は背をむけたまま弱い声をだした。

「かあちゃん、どこへ行ったん？」

「……ああ……。くにへ帰ったんだよ」
(帰ったんだよ)

「クニ！」

母の故郷は佐賀県。同じ九州だがずいぶん遠い。小麦粉などを、ツケで買っていたので、年末にはなんとかしなければならぬのだが、そのアテが、どうにもつかない。思いあまつた母が、工面のため、はるばる実家に行ったのだという。

「いつ帰ってくるん？」

「……ああ……。わからん」

以来、父は釣りを早めに切りあげ、午後じゅう窓のそばにすわるようになった。窓からは、田んぼの間を縫って、この蔵に通じる一本道が見える。母が村に帰ってくるのを、いち早く見つけようという心づもりなのだろう。

すわりつづける父の背中が、小さくしぼんでみえた。陽気な母がいないと、こんなに変わるのか、心細い背中だった。わたしは、毎日父の A 背中をみてすごし、ふたりでボソボソたべる蒸しヌカは味気なかった。

「……なあ……。かあさんは、帰ってこんかもしれないなあ」
(こないかもしれないなあ)

十日目くらいに、父が 2 つぶやいた。母に愛想をつかされたと思ったらしい。そんなことはない、きつと帰ってくる、と、父はげましながらも、不安になり、同時に、はげます自分を、すこしオトナになったように感じた。

二週間目。明日はおおみそかという日の午後、すわる父のうしろに寝そべって本を読んでいると、父の背中が 3 大き

くなるのを感じた。

「おい！ 直子、帰ってきよる！ かあさんが、帰ってきよるぞ！」
(きていろ)

「ええっ？」

飛び起きて窓からのぞくと、道のはるかむこうから、山のような風呂敷包みを背負い、両手いっぱい荷物をさげた母が、ヨチヨチ歩いてくる。その豆粒のような姿がまぶしく見えた。

「ほうれみい！ ちゃんと帰ってきたが！」
(きたでしよう)

わたしは父の背中をどやし、母を迎えに蔵を飛びだした。

年があけて、正月は豪勢だった。まっ白なおにぎりと山盛りのメザシ。母は米やメザシや乾物類を、ずっしりかついで持ってきたのだ。

「なあかあさん、こげんタップリとメザシがあるけん、わしの釣日も正月休みができるなあ」
(こんなに)

父は、にぎりめしをほおばりながら機嫌よく笑い、その背中が、もうしぼんではいず、いつもの父の B 背中にもどつていた。わたしはいつか母に、父の C 背中のことを話してやろうと思った。

(かあちゃんがおらんと、とうちゃん、背中まで小さくなるんよ)
⑪ わたしも機嫌よく、あははと笑った。

(「工藤直子『象のブランコ——とうちゃんと』より。一部表記を改めたところがあります。)

* 長持……服などを入れるための長方形の箱

ヌカ……米を精白するとき、玄米からはがれた粉末

間借り……お金を払って他人の家の部屋を借りること

ツケ……代金をあとからはらう約束で品物を先にもらうこと

問1 A } C に入ることばの組み合わせとしてふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア A…大きな・B…しぼんだ・C…大きな イ A…しぼんだ・B…大きな・C…しぼんだ
ウ A…しぼんだ・B…しぼんだ・C…大きな エ A…大きな・B…大きな・C…しぼんだ

問2 1 } 3 に入ることばの組み合わせとしてふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 1…ポツンと・2…サツと・3…ボソリと イ 1…サツと・2…ポツンと・3…ボソリと
ウ 1…ボソリと・2…ポツンと・3…サツと エ 1…ポツンと・2…ボソリと・3…サツと

問3 線①「箱のように用意していた」とありますが、「箱のように正座し」や「茶道のような手つきで」は「父」のどのような様子を表していますか。あてはまるものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ゆとりがあつて上品な様子
イ 伝統を感じさせる古風な様子
ウ がんこで人の意見を聞かない様子
エ 真けんでいいねいな様子

問4 線②「釣った魚は素焼きにして保存し、しゃぶるように大切に食べる」とありますが、「しゃぶるように大切に食べる」ということばから、「わたし」の家のどのような暮らしがわかりますか。20字以内で説明しなさい。

問5 線③「開き直つ（開き直る）」・⑥「思いあまつ（思いあまる）」の意味としてふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

③開き直る

ア のがれられないときとつて、凶太い態度になる。
イ いいわけがきかないと思つて、素直に謝る。
ウ どうにもできないと感じて、すべてをあきらめる。
エ いつでも明るい気分でいようと、いろいろ努力する。

⑥思いあまる

ア 気持ちが高まつて、あふれてしまう。
イ すべてがどうしてもよくなつてしまう。
ウ なやんで、たえられなくなる。
エ 自分でどうにかしようとする。

問6 線④「やりくりがつかなくなることも多くなる」とありますが、何のやりくりがつかなくなるのですか。2字以内で答えなさい。

問7 ———線⑤「のんきな両親も、ひたいを寄せて相談する回数がふえた」とありますが、「ひたいを寄せて」から、両親のどんな様子がわかりますか。あてはまるものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 子どもにじやまをされないようにして、仲良く相談している様子。
イ 今までのんきにしていた反省があるので、落ちこみながら相談している様子。
ウ とてもいい話なので、だれにも聞かれないようにこっそり相談する様子。
エ 子どもに聞かせられないような深刻な話なので、小声で相談する様子。

問8 ———線⑦「すわりつづける父の背中が、小さくしぼんでみえた」から、父のどのような様子がわかりますか。文中のことは使って25字以内で答えなさい。

問9 ———線⑧「ふたりでボソボソたべる蒸しヌカは味気なかった」とありますが、「わたし」が「蒸しヌカ」を「味気ない」と感じたのはなぜですか。20字以内で説明しなさい。

問10 ———線⑨「父をばげましながらも、不安になり、同時に、はげます自分をすこしオトナになったように感じた」とありますが、「わたし」がそのように感じたのはなぜですか。あてはまるものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の不安な気持ちをはまんして父をばげましていることが、「オトナ」な行動に感じられたから。
イ 母がいなくてもさびしさを全く感じないでいられたことで、「オトナ」になったんだと思えたから。

- ウ つらい状況きょうの中でもいつも楽天的に考えられることが、「オトナ」のあかしだと思っているから。
エ 父のことにまどわされないで最後まで母を信じぬくことは、「オトナ」にならないとできないから。

問11 ———線⑩「その豆粒のような姿がまぶしく見えた」のは、母の姿に何を感じたからですか。あてはまらないものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 勇気 イ 元気 ウ 安心 エ 希望 オ 歓喜かん

問12 ———線⑪「わたしも機嫌よく、あははと笑った」とありますが、このときの「わたし」の気持ちを20字以上30字以内で説明しなさい。

